

第5回「県政ひざづめ談議」結果概要

- 実施年月日 平成19年7月31日（火）
- 会 場 山梨県立博物館（笛吹市）

〔司会〕

皆様お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。

ただいまから、知事対話『県政ひざづめ談議』を始めさせていただきます。

本日の進行を務めます、県広聴広報課課長の田中でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、はじめに横内知事からごあいさつをいたします。

〔横内県知事〕（あいさつ）

皆さんこんにちは。それぞれお忙しい方々ばかりではありますが、『県政ひざづめ談議』ということで時間を取っていただきお集まりをいただきまして本当にありがとうございます。

日ごろ山梨県政にいろいろな形でご協力やご支援を賜っておりますことに心から厚く御礼を申し上げます。

出来るだけ県民の方々の本音の、生の声を聞かせていただきたいということで、この『県政ひざづめ談議』を始めておまして、年間に20回ぐらいやらせていただきたいなと思っております。今回が5回目ということになるわけですが、今まで4回やりまして、本当に皆様方の思いもしなかったようないろいろなご意見が出て参りまして、大変に勉強なっておりますありがたいことだと思っております。

今日は、『みんなで育てる博物館』ということで、博物館の問題を取り上げたということでございます。

お集まりの皆様方は県立博物館の運営につきまして、ボランティアの立場から日ごろ大変にご協力いただいている方、お支えをいただいている方々ばかりであります。

そのことをまずお礼を申し上げますと同時に、博物館の問題に精通しておられる方々ばかりでありますので、ざっくばらんにこの博物館をさらに良くするためにどうしたらいいのか、日ごろお考えになっていることを率直にお話をいただければありがたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

〔司会〕

本日出席しております県の担当課長を紹介いたします。

教育委員会で博物館を所管しております竹井学術文化財課長です。

それでは意見交換に入ります前に司会から進行上のご注意のお願いを申し上げます。

本日は県立博物館の運営に対しましてボランティアや、この博物館の機能の検討に携わ

っていただいている皆様と、『みんなで育てる博物館』をテーマに意見交換会を行いたいと思います。

多くの県民の皆様のご参加をいただきまして、来館者に親しまれ、高く評価され、また地域文化の向上に資する県立博物館とするためにどうすればいいか、それから何が必要かという、そういう観点で参加者全員で話し合いを進めていきたいと思っております。

意見を聞きながら気がついたこと、それから何でも結構でございますので、思うところを自由に、活発に発言していただきたいと思っております。

本日の『県政ひざづめ談議』の概要につきましては、県のホームページで個人名を伏せまして公表することとしておりますので、ご了承をいただきたいと思っております。

それではご発言をお願いいたします。

[参加者]

私はボランティアを博物館の開館当初からやらせていただいておりますけれども、何とんでも博物館でボランティアが出来るという環境づくりを県のほうでしていただいたということに対して非常にありがたく思っております。

そしてその反面、よその都府県で見られるようなボランティアに殺到するという、そういう現象が山梨には見られないというところをちょっと残念に思っているわけです。

よその県ですと大体ボランティアを募集しますと、すぐ定員オーバーになって、そして抽選したり、任期を1年とか2年とかに限らないと希望者の需要を満たせないというのが実態なんです、本県の場合ですとなかなか集まってこないということです。

どうしてかなと思ったんですが、普段よく他県のメンバーに、「山梨県は山国で、いわゆる甲州商人という感じが強くて、どっちかという文化力といった面については二の次になっているんじゃないのか」、なんていうことをよく言われるんですが、「そんなことはないよ」と言うんですが、そんなこともボランティアの応募の数がちょっと少なかった要因ではないかなということで残念に思っています。

そしてもう一つは、県立4館の共通入場券があったらいいなということを思っていたんですが、たまたま今月の10日付のホームページを見ましたら「ミュージアム甲斐in券」という、すばらしいネーミングで県立4館共通の入場券が発行されたんです。

ああ、これはしめたと思ったんですが、値段が1枚5,000円するんですね。

この博物館の年間パスポート券が2,000円なんです。そして美術館が3,000円、文学館が1,500円ですか、そして考古博物館が1,300円で、それぞれ発行しているんですけれども、トータルすると7,800円になるんですね。

大体6割強で購入は出来るんですが、やはり共通券を求める県民というものはそれだけ文化力の向上心があるはずなんですよ。そうなりますと5,000円という値段でいいかどうかということもちょっと私は疑問に思っています。

ですから県のほうでも将来の文化力向上ということで、ある程度奨学金をいただいて、せめて3,000円ぐらいで共通券が手に入るようになれば、おそらく大勢の県民の方々が恩恵にあずかることができるんじゃないかと、こんなことを感じているわけです。

〔知事〕

おっしゃるとおりちょっと高いですね、5,000円。どうですか課長、売れ行きはいかがですか。

〔学術文化財課長〕

今年度、ミュージアム甲斐ネットワーク事業の一環として発行しましたが、料金を美術館と博物館を足した金額、おおむね5,000円を目安に料金設定させていただいたんです、5,000円で4館の企画展も含めて見ることができるんですが・・・

〔知事〕

考古博物館と文学館はサービスということですね。（笑い）

〔学術文化財課長〕

ただ全国的には、企画展と常設展を同時に見られる会員券というのはどこにもございません。本県だけでございます。

その辺を御理解いただければ、そんなに高い金額ではないんじゃないかと・・・。

〔知事〕

ただし売れ行きによっては、そのうちに何か考えなければいけないということですね。

〔参加者〕

例えば夫婦に子供二人というふうな家庭で、家中そろって見学に行きたいなという時のことを考えますと、やはり今のこういう時代ですから、若い世代の家庭にはちょっと負担になるかなという気がしたんですよね。

ですから、こういった文化に対する意欲というものを持っている県民に対するご褒美として、少し奨学金を出していただけるとありがたいと思うんですがね。

〔知事〕

山梨県人というのは、ボランティア活動参加率という数字がありまして、ボランティア活動にどの程度参加しているかという、これは社会生活調査という調査なんですけど、それで見るとボランティア活動参加率というのは全国でも一番高いんですよ。

だからボランティア活動には割と活発に参加しているんですが、どうも文化関係じゃないようですね。

〔参加者〕

今の会員券、共通券と連動したことなんですけど、元々県立博物館には基本構想の段階から、県内のいろんな文化施設と結ぶということで、ハブ博物館という構想が前提にあったのですが、基本的には互いに連動して、例えばこの県立博物館一館で完結でなくて、やはり県内に遺跡の現場は散在しているわけですから、ここでテーマや研究素材を見つけた

ら、その歴史の現場にまた、足を向けるということで、各地域にある文化施設ともハブで結んでいこうと。

そうすると、地域の館はさらに地域の中のまたハブになる、地域ハブ化。

そういう形の運営だと一館で単独でやっていくよりも、はるかに経営効率がよくなるということで、基本構想の事業部会ではずっとそういうことを議論してきて、県議会でも県立博物館はハブ博物館にしますというような答弁をずっとしていただいていたわけですね。

それで今の会員券の話も、そこに参加しているネットワーク館の会員券を持って、ここに来ることによって何パーセントか割り引いてもらえるというような、それは逆に言うと4館の共通券があったら、そのネットワークの館のどこに行っても割り引く制度を設けるという方向を取れば、もっと先が続く効率のいい運営が可能じゃないかというふうに思うんですね。

そうすると、ここに来て次のテーマは何かということで、リピーターに繋がっていきましますし、またいろんな形で新しい発見をするというようなことが可能になってくると、そのようなことを考えております。

〔知事〕

山梨県というのは博物館や美術館の数は多いんですね。

〔学術文化財課長〕

博物館の類似施設等々を含めて150ぐらいの館に、今回ミュージアム甲斐ネットワークへの参加を呼び掛けようと思っております。

〔知事〕

呼び掛けて、そして・・・

〔学術文化財課長〕

ミュージアム甲斐ネットワーク会議に参加していただきます。

その立ち上げを8月30日に知事さん出席の下にここでやろうと思っているんですが、各館に呼び掛けて、「ミュージアム甲斐in券」を参加館に持って行けば割引していただけるか、その逆もどうですかという呼び掛けをしようと思っております。

〔知事〕

いいことですね、それは。先ほどの方がおっしゃったようなことですね。

〔参加者〕

そのわずかなことですが、そういうつながりがあると勢いが出てくると思うんですね。

〔知事〕

出来るだけ割引してくれるようお願いをしようと思えます。

〔参加者〕

山梨県には、県立としましてこの博物館と、美術館、それから文学館、考古博物館があり、そして科学館があって、小さいですが湧水の里水族館と、県立でこれだけ揃っているのは他の都道府県でないんですね。

私が思いますのは、この秋に富士山の世界遺産暫定リスト登載記念ということで、当館では北斎と広重の富嶽三十六景の展覧会をするわけですが、今年は間に合わないと思うんですが、せつかくこれだけ県立のいい施設が揃いネットワークみたいなものが出来ていますので、来年度以降、各館共通のテーマで何か特別展をやっただけだったらすごく盛り上がるんじゃないかと。

例えば、もう一回来年『富士山』というテーマで、県立博物館では富士山の資料を集める、美術館では近代画家を含めた富士山の名画を一堂に集めると。

考古博物館では富士山に係る何か考古のものをやり、科学館では富士山の科学そのものをやっただけ。

湧水の里では、富士山に係るものをやっていく。

そういうことをやれば、注目がずっと増していいんじゃないかと思うので、是非お声を掛けていただけたらと思うんですが。

〔知事〕

確かに科学館もあれば富士湧水の里水族館がありますね、県立でね。おっしゃるとおり6つあるわけですね。

そうすると、共通テーマで何かやるというのは面白いかもしれませんね。

〔参加者〕

それを何年か続けると非常に厚みが出来て、面白いものになるんじゃないかなと思うんですが。

〔知事〕

富士山が世界遺産になって、その記念というようなことになれば、富士山などは恰好のテーマになるわけですが、それにしても世界遺産になる前の段階でそのようなことを考えてもいいかもしれませんね。

確かに、おっしゃるようないいことだと思います。それは検討してみたいと思います。

科学館とか水族館は、特別展みたいなことをやっているんでしょうかね。

〔学術文化財課長〕

やっております。

ただ水族館や科学館のテーマの中に、なかなか富士山に結びつくものが研究の成果として出てくるかどうかということだと思います。

博物館の場合には秋に富嶽三十六景、当館所有の北斎と広重の富士山に関わる絵画、全

部で百数十点になると思いますが、それを世界遺産の暫定リスト登載記念展という格好で開催することになっております。

すでに、美術館は富士山をテーマに2年前に開催しております。

静岡県立美術館との共催で開催した経過がございますが、そうは言いましてもまだ十分うちの県にも富士山をテーマにした絵画がたくさんございますので、企画展等々考えられると思いますので努力いたします。

〔知事〕

そうですね。

協議会の皆さんは、博物館の外部評価をやっていただいておりますけれども、博物館が出来て1年10カ月経ちますけれども、外部から客観的な目で見えていかがですか。

〔参加者〕

これからのメッセージをこの館だけでなく、県内の様々な施設や外部の方たちの目線に応じていく必要があると。

そのためには、自分達のミッションをちゃんと持って発信出来る力を持たなければだめでしょうね。

同時にそのことを基本にして、全国の文化施設へもそのような観点から発信出来るように、メッセージを出していくような形を今考えておられると思うんですが、今まで評価というと、どうしても設置者あるいは運営者の側からの評価ということになってしまっていますけれども、やはりつくるにあたっては当然、使命があるんですね。その使命をちゃんと分かりやすく理解されているかどうか、そしてそれがやはり普遍性を持つかどうか、そういうことの中から、見に来てくれる方の側からの視点を重要視していかななくては今後だめじゃないかと思うんですね。関係者の一人として・・・

〔知事〕

開館から1年10カ月経って、どうですか？ 博物館協議会としてはこの博物館は合格点ですか。

〔参加者〕

開館すると初めバツと人が集まるところがありますけれども、ここはそうではなかったですね。

じわじわという形で、ですから初めはかなりステータスの高い方達からも、この博物館は何を発信しているんだというような意見があったと思うんです。

だけど初めから、ここがつくられる時からオンリーワンを目指す博物館にしようということでしたから、本当に全国でも稀なテーマ別の博物館だということで、徐々にそれが浸透して行って、私が接した県外のそれなりの方達が、「いや、あそこは面白いな、また行きたいな」と言っている。

ですから、今後じわじわと浸透度が増えていくんじゃないかと。一過性の、何と云うのかなアドバルーンを上げてバツと集まってくるというようなものじゃない。そういうメッセージを出しておられるのではないかなと思っているんですがね。

〔知事〕

玄人好みの博物館ということですか。

〔参加者〕

だけど垣根が高すぎてはいけないと思う。

ですから庶民性を、野暮と言ってもいいと思うんですが、それを持ち合わせればこれはいけるなという感じを僕個人は持っていますね。

〔知事〕

庶民の目から見た歴史とか、そういうようなものですか。

〔参加者〕

私がボランティアをしている中で、今おっしゃったことに関連する体験があるんですが、どういうことかと言いますと、八王子のほうから見えられたお客さんですが、子供たちが喜ぶようなジオラマが置いてありますよね。

江戸時代の農村の年間を通した農作業の風景、あるいは農村の民話の世界とか、そういったものがジオラマで展開しているわけなんですけど、そのジオラマの中の綿畑とたばこ畑をじっと眺めていたら、とにかく親の苦勞を思い出したということで涙ぐんだ声で話をされた記憶があるんですがね。

そういった面で、ここの博物館の持っている力の強さといったものを、その時に体験したんです。

〔知事〕

協力会の皆さん方は、博物館の運営全般にわたっていろいろな形で、純粹にボランティアとして協力していただいているわけですが・・

〔参加者〕

私も最初からボランティアをさせていただいているんですが、ボランティアが先ほど言いましたように少ないんですよ。

そういう意味では、体験ボランティアみたいな制度を作りまして、体験していただいてボランティアに参加していただくというふうな形で、何でもいいと思うんですが、例えば畑がここにはあるんですが、その畑の体験で芋が出るとか、そういうことで最初から係りを持って、1年だったら1年を通しての体験ボランティアみたいな形で募集したらどうかと思うんですが。

〔知事〕

ここは畑があるんですけどね。あれは何に使っているんですけどっけね。

〔参加者〕

芋だとか豆だとか、山梨県の産物を・・・、そして秋に収穫祭などしますと、子供たちが根っこの細い芋でも「あった！」と言って喜んで芋掘りに参加したり、家族共々喜んでいきますね。

〔知事〕

山梨の農産物で、例えば芋であれば八幡芋だとか、豆だと曙の大豆だとか、そういうようなものを植えられて・・・、それは貴重なことですね。

〔参加者〕

そういった体験ですね。

そして県外から来るお客さんからは「これは面白いね」ということで、一日ではちょっと見切れないから、また来たいなというお客さんもありましたし・・・。

〔知事〕

ボランティアが少ないと言いますが常時募集はしているわけでしょうか。

〔参加者〕

昨年度までは年に一回の募集だったんですが、今年度からは随時募集に変えております。

また、今年からは我々協力員に博物館協力会の運営はお任せするというようなご意見もいただいています。協力会のほうで班別にして、畑の管理と庭の部分の説明とか出来るボランティアさん、資料がたくさんございますので、この資料整理に参加する方、また展覧会の時のガイドをする方とか、ミュージアムショップの関係、それからPR広報や研修活動を請け負ったり、我々の協力会親睦会をやる者とか、そういうもの全てを昨年度までは全部館にお任せだったんですが、今年度は我々に任せていただいたので、今徐々にそれが形を整えつつあるところなので非常に面白くなりましたね。

ですから、もっとボランティアに参加していただけると嬉しいなと思っています。

〔参加者〕

私のここでの仕事は、主に古書の整理などをやっています。

寸法を計ったりパソコンで打ってみたりという形でやっているんですが、県立図書館からこちらのほうに来た古文書もたくさんあるわけです。

そこで、県内の各家庭にも古文書がどこかにないかということをお願いしていただけ

ばよいと思います。

家へ置いていてもという方もありますし、また焼かれちゃったらもったいないですし・

・ ・

〔知事〕

それは重要なことですが、しかしそれは実際どこかでやっているでしょう、文化財調査とか。

〔参加者〕

今のお話で、古文書というと古いものだけなんですけど、ちょうど今一番なくなりつつあるのが戦後の、特に紙質の悪かった時代のものというのが今残っていないし、どんどん捨てられているので、集中的に集めませんとあと100年経ったらば、一番肝心だった昭和の戦後の時期がぼそっと落ちてしまうということもあるので、古文書というとどうしても墨で書かれたものももちろん貴重なんですけど、出来ればそうでないものも呼び掛けていくようなことを少し系統的にやっていただきたい。

博物館でも、すぐに利用出来るかどうか分かりませんが、今ここで集めておきませんと、将来的に利用出来ないということになります。

この前、愛知に行きまして、ちょうど徳川家の美術館がございますね、そこに行った時に織田信長が秀吉の嫁に送った手紙が残されて、それが展示されていたんですが、あれは確かに貴重なんですけど、なかなか系統的に集めるというのは難しいんです。

とにかく、戦後の時期のものも含めそういうものを組織的に、あるいは県のほうで力を入れていただいて、それを核として博物館を利用するというような形に進めていただけると、非常にありがたいなというふうに思うんです。

〔知事〕

それは非常に大事なことですが、それはどこかでやっているんでしょうかね。

やっていないですか。博物館もやっていないですか。

〔博物館副館長〕

古文書の件については、県内のいろいろな方から、自分の家には古文書があるんだけど、それを読解していただけないかというような話がございまして、それについては博物館で対応しています。

また全てではございませんけれども、そういった際に古文書を読解してさしあげた方から、それを寄託していただいたといった話もございまして。

全ての方に行き渡ってない面もございましてけれども、そういった形で要望については応えております。

次に現代史のほうについては、ケースバイケースでございましてけれども、中には対応しているケースもあるという状況でございまして、今後これをどうしていくのかこれから検討していく課題だと思っています。

〔知事〕

いや、だけどそういう古文書というか、その戦後一時期のものも含めて確かに集めておくという体制は必要ですね、おっしゃるとおりだと思いますね。

何か考えなければいけないと思いますね。

〔参加者〕

今の話に関連しまして、県内には山村地域も多く、そういうところというのはどんどん人口が減りまして、地域の側でそういった書類ですとか文化財に値するようなものを守りきれなくなっていくというところが、これからどんどん多くなっていきますよね。

やはり山の中というのは、現代ではどんどん人も少なくなって、産業の面からいっても力が弱くなっているわけですが、例えば山梨県の戦後の歴史を振り返っても、やっぱり林業であるとか水力発電であるとか、県の力で支えていった産業が山の中にあっただいように感じますし、そういった意味でもこの時期に、是非ともそういった今残されているものを、博物館のほうでも力を入れて保存していくような対策を考えていただかないと、こういった地域はどんどんマンパワー的にも、知恵も力も足りなくなっていく状況で、やはり県のほうでそういった対策を考えていただけると大変いいなと思います。

〔知事〕

各市町村に歴史民俗資料館というものがあって、それぞれの旧町村などのいろんなものを集めていますね。

今もまだあるわけですが、しかしどうも見ていると時々行っても人がいたりいなかったりですね。

ちょっと管理の面でも問題があるし、どうも最近そういう運動というのが低調になってきたような感じがしますね。

だから市町村の歴史民俗資料館とか、そういうところと協力しながら体系的に物を集めていく、そういうシステムづくりみたいなものが必要かもしれないですね、おっしゃるとおりですね。分かりました。

〔参加者〕

山梨県史がいよいよあと概説編で全部完結するというので、膨大な資料等が県立博物館の方に移管されてくる。

そして、そういうものもいい形で活用されていくと思うんですが、よく行政の書類、文書というんですかね、行政上いろいろ書かれた資料の中には歴史的なものがあると思うんですが、そういうものがある時期に廃棄されるわけですね。あれは20年ぐらいですか・・・

〔学術文化財課長〕

文書の保存期限もいろいろありまして。5年とか、永年というものもありまして・・・

〔参加者〕

行政資料で以外に重要なものがありながら、無造作に捨てられちゃうというようなことがある、そういうようなもののチェック機能と言いますか、将来一つの歴史資料として残しておいたほうがいいなというような項目みたいなものをきちんとしておいて、そういうものを捨てる前に、一度博物館なり図書館なりにチェックを入れてもらって、その上で廃棄するというような、そういったものが県内の市町村で確立出来てくると、少なくともこれからのいろんな行政資料というものが、有効に使われていくんじゃないかと思います。現状そのシステムがないと思うんです。

〔知事〕

山梨県は公文書館がないですからね。
そういうことを体系的にやる組織というのがないですね。
私学文書課というところがありますけれども。

〔参加者〕

昔、市川大門にあった代官所が廃止された時に、それまでの文書や資料が山積みになっていて、よそから来た人が好きなものを持ち帰ったとかというような話もあったようですが、そういう中に意外と重要な資料があったりして・・・。

〔知事〕

今、県庁の廊下に積まれていますよね。（笑い）あれは廃棄される運命でしょうかね。

〔広聴広報課長〕

ルートとしては私学文書課から図書館というのがあるんですが、なかなかまあ・・・

〔知事〕

全部が全部というわけにはいかないですから、チェックが難しいですね。

〔参加者〕

だから項目を決めておいて、こういう項目については廃棄する前にチェックをするというように、何でもかんでもではなく。

〔参加者〕

私は博物館のPRについて一言。
山梨は、全国に誇るべき素晴らしい歴史文化を持っておりますけれども、意外にこのことを県民が知らないというところがあります。
実は私、今日こちらに出てくる前に県の会議がありまして、幹部の方々に「なぜ山梨県というのかご存知でしょうか」とお伺いしてみたんですが、誰も正確な話が出て参りませんでした。

もう一つ「長野県が教育文化県だと思いますか、山梨より進んでいると思いますか」と言ったら、「そう思う」と言うんですね。

これは悔しいから私はいろいろな統計書類を調べたんですが、そんなことは全くないんです。

むしろ山梨のほうが進んでいる面がたくさんあるんですね。これはやっぱり山梨を知らないと。

実は、明治4年に山梨にとてつもない大きな出来事が二つありました。一つは、今私どもが使っておりますこのお金の円が、新貨条例という法律で制定されておりますけれども、その制定のいきさつは大隈八太郎という、後の重信ですね、彼がああ朝廷の朝議で指をわざわざ丸めて、「甲州金は丸くて合理的だ、素晴らしい。お金を、みんなどうですか、円にしようじゃないか」と、これで決定的になったということです。

まさに円のルーツに甲州金あり。そのことを今日の県庁の方々もご存知なかった。

それからもう一つは、なぜ山梨県というかということですが、私最近痛切に感じたことがあるんです。

一つは、長野県の馬籠宿の山口村です。その村が中津川、岐阜県へ越境合併したんです。あれは山梨でも話題になりましたし、長野県ではもう県をあげて慰留をしたけれども、結局大きな文化資産を失ったと。

全く同じころ、山梨でも道志村が横浜市へ合併を申し入れた。それから丹波山村、小菅村が東京の日の出町へ合併を申し入れた。

道志村は断られましたけれども、丹波山村の場合は、日の出町の町長選挙で推進派の方が落選をされた。それで沙汰止みになっている。

その当時、山梨県内では自分の町村がどこと一緒にするのかに夢中で、県境の小さな村などということは全然意識になかったんです。

実は知事さん、これは大変なことなんです。

といいますのは、山梨というのは甲斐四郡三十一郷、これはもう奈良時代からずっと千数百年間続いてきて、葡萄の葉の形をした国の形であったわけです。

これは全国に今4つしかないんですね。これは、とてつもない貴重な文化だと思うんです。

明治の府県統合があつたり、戦国時代の長野なんか10ぐらいの国に分かれていたんですが、山梨にはとてつもない文化が残っていたんです。

日の出町の出方次第では、千何百年ぶりに山梨の形が、葡萄の葉の形がまるで変わったものになったかも知れない。

そういうことを知るということが故郷を知り、故郷を愛する心を持つことにつながる。

博物館がその総合PRの場所であり、学習の場所であると思いますので、特に開館以来企画展が本当に絶え間なく開催されておりますけれども、これがとてつもなく素晴らしいものだと。

県の広報をはじめ、先ほどのお話にもあったハブ博物館を通じて、それから文化団体を通じて、もっともっと博物館が利用されることにより、県民が山梨の文化を知り、愛する心を醸成出来るんじゃないかと思います。

話は長くなりますけれども、なぜ長野のほうが素晴らしいと思うのか、これは長野はた

くさんの国があつて、今の「風林火山」を見ましても争いの連続、隣同士が仲が悪い、常に他人を意識する、だから自尊心が育まれる。

山梨のほうは260年間殿様がいなかった。

江戸に顔を向け、江戸の文化ばかり気にしていたから、そういうコンプレックスが出る。

山梨のほうがはるかに優れた文化を持っているんだから、県庁の方すら長野のほうが上だと思ひ、それからなぜ山梨県かを知らない。

山梨県という県名が、皆さん専門家がいらっしゃいますが、実は明治政府のいじわる命名でしてね。

甲斐四郡三十一郷、巨摩、都留、八代それから山梨、この山梨の郡の中にたまたま政治の中心である現在の甲府があつた。

それで甲府県が山梨県にされた。これが甲州市、甲斐市、山梨市、今の混乱の原因になつたんですね。

明治政府に協力したところは、みんな好きな名前を付けていました。

それに対して、徳川の直轄領や親藩はそれと区別しようということで、徹底的にいじわるをされた。

だから、金沢県も隣の土地の石川県という名前を変えられちゃつたんです。

〔知事〕

茨城県も茨城郡から来ていますね。

〔参加者〕

そうです。そういういきさつがあつて、そういうことをせめて県庁の方は良く知つてですね、もっともっとPRしていただいて、故郷を愛する心を養っていただく。

〔知事〕

そのおっしゃつていた長野県、少なくとも教育は長野県のほうが上なのかなとも思うんですが、そうでもないんですか。

〔参加者〕

私、悔しいから地図で調べたんです。日本全国の県勢一覧が見られる素晴らしい地図があるんです。

例えば、芥川賞と直木賞は長野県が2人で山梨県は6人いるとか、大学や高校の進学率は全く同じレベル、もしくは山梨が上の時期もありますし、なぜ山梨が長野に劣っているのか、そういう気持ちを払拭していただきたい。

〔知事〕

私もそうですが、昔は諏訪清陵なんていいな、諏訪清陵行こうかなと・・・（笑い）。

言われてみるとおっしゃるとおりですね。

〔参加者〕

特に山梨の素晴らしさというのは、徳川幕府の甲州の武田貨幣制度にしても、あらゆる制度がみんな幕府の基本の政策となって、時に貨幣制度も秤も御法度もそうです。

専門家もそう言っています。そのくらい甲州の文化は素晴らしかったですね。

〔知事〕

おっしゃるとおりですね、確かにね。

〔参加者〕

千葉県の国立歴史民俗博物館にある資料で、明治17年の記録なんですが、小学校の数、断トツ日本一です。就学率も男女とも断トツです。

そして過日、歴博の現代史の方たちを、浅川巧のことで、彼の故郷の地を案内したんですね。

その中に清光寺があって、芥川龍之介なんかも来て夏期大学をやったということだけでも、当初は有島武郎が来る予定だったんですけど、病気のため芥川になったんですが、そこに来た人達の面々をみんな紹介したんですね。そしたら長野から大体50名ぐらい来ていたんです。

〔知事〕

夏期大学というのはどこにあったんですか。

〔参加者〕

清光寺です。

〔知事〕

清光寺というのは長坂の？

〔参加者〕

浅川巧も秋田高等小学校を出ていますが、その時代は清光寺が学校でしたからね。

長野もあそこを見て始めたんですね。だから元はあそこから出発していたんですよ。

それだけのものを持っていたんですが、ただ明治40年の水害後にはもう見るも悲惨な状態ですね。

〔知事〕

あの水害後はないですか。

〔参加者〕

もうどうしようもないですね。

この博物館ができる当時は、資料はないだろうと言われたんですが、今はもう倉庫いっぱいなんです。

ただそういうものを、この博物館が掘り起こしていくには、それを全部やっていくには今の学芸員でやったらアップアップだと。

人的資源をどうするかが問われていると思います。

[参加者]

博物館とは関係ないんですが、山梨県の歌ですね、記憶によると私達は校歌と同じように、県歌というものを覚えさせられたんですね。

長野県の人によると、必ず学校でもって県歌というものを覚える。長野県民は誰でも知っているんだというほどに・・・。

[知事]

信濃国という、あれは有名ですね。長野県だけですね、県歌が有名なのは。

[参加者]

それにしても山梨県においては・・・。まあ、また知事さんのほうから推し進めていただいで。

[知事]

県歌がね、私が子供の頃は歌わされましたよ。最近は歌わなくなりましたね、小学校でもね。

[広聴広報課長]

県庁ではやっています。

[知事]

県庁では昼休みに・・・

[参加者]

せめて小学校ぐらいは教えるという形を取っていただければ。

[参加者]

文化というものにはお金がかかるんです。

美術館、文学館それから博物館、こうした文化施設と言われるものは教育施設なんです。

それがどうも観光施設に限られて評価される。何人入ったからうまくいったとか、人が入らないからそんなに金を掛ける必要がないんじゃないか、というような風潮が山梨県では非常に強い。

それに比べて長野県では、そういう文化に金を掛けるということに対しての理解が、非常に高いと思うんです。

一つの例で知事さんもお承知だと思っんですが、小澤征爾さんがサイトウ・キネン・オーケストラを作って公演をやっておられますのは、長野県なんですよね。小澤さんのお父さんは山梨県のご出身なんで、小澤さんは山梨でやりたかったんです。

ある程度アプローチもあったんですが、結局長野県のほうが小澤さんの希望どおりになるということがあって長野へ行ったという話を、私も聞いたことがあるんです。

どうも、お金などをいろいろ決定する立場にいる皆さんが、失礼ですが文化活動というものを観光施設と一緒にして評価するから、おかしくなるんじゃないかと思うんです。

博物館、美術館は決して観光施設ではなく教育施設なんです。博物館をここに建てた時にも、総合教育センターが隣にあり学校施設との関連性があるから、ここがいいんだと言って建てたはずなんです。

しかし、出来てみると何人しか入らないじゃないか、あれじゃ赤字になるじゃないか、儲からないじゃないかという声を、巷からはたくさん聞くんです。

私がこういうことをやっておりますといろいろな人から、どうしてあんな無駄遣いをするんだという声も聞かされるんです。

だから美術館、文学館、博物館という施設は教育施設なんだからということを理解してもらおうよう、広報などでもっと積極的にやっていただきたい。

それと同時に、学校教育の中で積極的にこうした施設を利用するということに対する啓蒙を、教育委員会がもう少し何らかの形でやっていただきたい。

今、各施設の学芸員の皆さんは、学校とどういうふうに連携を取って、子供たちをどういうふうにしたら来てくれるか、ここを学校の教育の場としてどういうふうに使ってもらえるかということでものすごく苦労しているんです。

ただ、残念ながら苦労している割に成果が上がっていないと、私は見えています。

だから、学校現場がもう少しこうした施設を学校教育にどう取り組めばいいかということを検討していただきたい。

よろしく願いいたします。

[参加者]

私は学校現場の現職教員なものですから、今のお話を聞いてお話をさせていただきたいと思っます。

本当にこの施設を作っていただいたことで学校現場としては、すごくありがたいなと思っています。

先ほどのパスポートに関連するんですけれども、今年から夏休みに限って4館を子供たちに無料で使わせていただけるということで、その知らせを子供たちに伝えただけでも、子供たちがすごくわくわくするような気持ちでいたんですが、何かそういう一つのお知らせを私達が伝えることが、すごく使命があるなということを感じています。

ただそれを配布するのにも、「はいっ」と言って配っていれば、その小さい字を細かに読むことは、子供たちはその場でしないでしょうし、それから家庭に配られた時にも、保護者が果たしてそれをどのぐらい読むかということもあるかと思うんですね。

ですから、私達が本当にメッセンジャーであることに、すごく使命感を感じています。

それから、この館の活用に関して私達本当に力不足な部分も、私達という言い方はおかしいんですが、特に小学校の教員は専門性がなかなか深くなれないという部分があるのですが、でも学芸員の方達がすごく私達にアドバイスをしてくれたり、サポートしてくれるということもすごく実感しております。

それから出前授業では、私達の意向を聞いていろいろな教具の開発をして下さったり、いろんな資料等を教えてくれたり、とてもありがたいなと思っています。

ただその資料を子供たちにそのまま与えるというのはとても無理ですので、私達のほうで教材研究というようなワンステップがあるんですが、例えば社会科だとしたら小学校現場では8教科のうちの一つですよ。

教育的に、どのぐらい博物館を利用できるかということ、正直すごく学校現場も時間的に厳しい状況ですので、じゃ何が出来るかといったら、確かに校外学習でこちらを活用するということでは、大分なってきたように私も思うんですが、もう一つこれから発展させていくためには、本当にお願いをしてきたんですが、やはり予算面で無理だということなんですが、子供たちがここに来る足、というのは授業の中で活用する場合には学校はどうしてもバスを1台チャーターして、一日一人というと大体2千5、6百円になるんですが、それを保護者が毎回毎回負担は出来ないわけですよ。

ですから、それが県の負担的なもので出来るのか、または市町村単位でうまく協力しながらそういう交通面のフォローが出来るのか、ということをお願い出来るのであればまた検討いただきたいなと思います。

それからもう一つは、学校単位で来るということの中でやはりいろんな無理もあると。じゃどういうふうを活用していくかといった場合に、やはり保護者の啓蒙がすごく必要だなということを感じています。

土日を利用してこちらの館に来るとなると、土曜日は子供は無料になりますので、そういう利点を活用して子供たちと一緒に保護者も利用していただきたい。

保護者も年齢的には20代後半から30代、40代前半、一番忙しい時期だと思うんです。

ですから、こういう文化的な施設にはなかなか足も運びきれないんですが、私もこちらに係らせていただく中で、山梨の文化の素晴らしいものがたくさんあるということをお教えさせていただいて、私も自分自身、この年になってなんですが誇りを持てるようになっていきます。

それで、子供にも伝えるということが出来るようになったな、ということを感じていますので、保護者がまだ頭の若いうちにそういう文化的なものを吸収し、子供と一緒に共有空間として、こちらの館を利用することが出来たらいいなと思っています。

私自身は、子供たちの教育には誠心誠意やっていきたいなと思うんですが、保護者の教育まではなかなか出来がたい部分がありますので、学校現場を出発点としての啓蒙ということで、学校現場からこちらに来た先生方たちとも協力しながら、保護者を対象の話し合いを企画したこともあったんですが、保護者から子供と行ってみようかしらなんていう話も聞きましたので、どこの学校でもそういうことが出来るということはないと思いますのが、県の何かの催しもの時にはそういうものがあったらいいのかななんて思います。

よろしくお願ひしたいと思ひます。

〔知事〕

総合的学習の時間があるんですが、例えば小学校はともかく中学校ぐらひは、定期的にここへ連れてくるようなことはしてないんですか。

〔参加者〕

近隣の学校は比較的そういうことも可能だと思うんですが、やっぱり交通手段の問題や授業時間の中での子供たちの安全確保等々を考えると、いろんな面で難しい部分もあると思ひます。

そうなるとう夏休みにとひうことで投げかけすると思うんですが、現にそういう実績を残している先生方もいるんですが、全県一斉とひうのはなかなか難しいと思ひます。

〔学術文化財課長〕

なかなか難しい面がございます。学校現場で時間がなかなか取れないなど・・・

〔参加者〕

私、商売をやっているものでこういう学術的なことは余りよく分かりませんけれども、この博物館にレストランがあるんですが、カフェテラス、食べるところですね、お茶をちよつと飲んだり・・・

私は、あちこち見て歩いてそのレストランに行ってちよつと食べたりすると、その雰囲気は何となく分かるので、それでちよつと聞きましたら余り食事が出せないような厨房になっているらしいんです。

本当にカフェテラスみたいな、お茶を飲む程度のものになっていると。

やはり女の人などもちよつと友達を誘って千円ちよつとぐらひで何か軽く食べられるような、ランチでも出来るようなところがあるとそういうところに行くんですが、食べ物人が寄せればいいとひうことではないんですが、やはりそういう魅力も一つ欲しいなと思ひます。

このレストランを利用すると、どうしてもテーブルが大きいのでたくさんの人が入れなくて、四人掛けのところ一人が座ってしまうと長くそこにいてしまうので、ちよつと見直したほうがいと、個人的な考え方ですが思ひます。

〔知事〕

美術館のカフェテラス、レストランはいいですよ、なかなかね。

料理もおいしいですよ。あれは非常に評価が高いですよ。

〔参加者〕

多目的に人を寄せるような部分も見ていったほうがいとじゃないかな。

[参加者]

もう一つよろしいでしょうか。今年はNHKさんのお陰により風林火山ブームで観光客も賑わっておるんです。

山梨県においては、武田氏を取り入れていくことが必要じゃないかと思われるんですが、数年前に私がある学校へ行きまして、甲陽軍鑑の本があるか聞いたわけなんですよ。

そうしましたら、和綴じの甲陽軍鑑しかないということをおっしゃったんですよ。

もちろん、この博物館には武田信玄関係が充実しておりますが、その学校に行きましたら全然ないということをおっしゃったわけなんですよ。

それでがっかりしたわけなんですけど、今年はいろいろ本が出ておりますから、知事さんのほうから話していただければ幸いです、お願いします。

[参加者]

この博物館を大勢の方に知っていただくには、やっぱりここに集まっていたかなければ知ってもらうことは出来ないと思うんです。

それで、この博物館を起点としてハブ博物館にシャトルバスのようなものを、月に一回でも二回でもいいから走らせていただいて、一つの場所へ往復すれば元の場所に帰れますよね。そして遠くの方もこっちに来られるし。

ここのことはよく分かりますけれども、遠くの博物館はなかなか行かれませんので、あっちもこっちもやっぱり見てみたいんですよ、勉強してみたいんです。

だから、そのシャトルバスのようなものを、博物館を起点にして出していただけたらいいなと、そんなふうに思っております。

[参加者]

私は協議会に携わさせていただきまして、1年何カ月かになるわけですが、評価委員会には、私も参加させていただいた中で、内部検証から外部検証から、非常に多岐にわたっているなど感心したわけでございます。

先ほどから話に出ましたように、単に人がたくさん入れればいいというふうなことばかりではありませんし、学術的なものですからコストの問題もなかなか大変だということですが、非常にコスト意識を持っているなという印象を持ったわけです。

それともう一つは、先ほど観光ということも出たわけですが、やはり地域活性化という面では、非常に大きいインパクトがあるというふうな感じがしたわけです、と申しますのは、従来は余り注目をしてなかったんですが、何回かここへ寄せていただいた中で、地域のちょっとしたことを取りあげて企画展でやっているということで、県民の皆さん方を巻き込んだ形の中でやっているということについては、非常に注目度に値するなということでもあります。

各地域のことを拾いあげていくということで、来た人がそれを見て、それがまた地域の活性化に繋がっていくと、人の交流が出来るということですから、なお一層ハブと地域と

の交流をもっと活発にやっていただければ、人が回るという意味では、観光の面でも大いに期待出来るんじゃないかという感じはいたします。

ここに対する期待というのは非常に大きなものです。

[参加者]

今後は文化と歴史を発信して、観光のための施設ではないという先ほどの先生のお話も十分理解させていただいた上で、あえて申し上げさせていただくと、これだけ素晴らしい施設があり、せっかく山梨県に4千万人という観光客がみえているんですね。

やっぱりそうしましたら、その観光客との接点というものをもうちょっとうまくしていただくことによって、ここもより活性化出来るんじゃないかなという思いが多分にございます。

ですから、せっかく観光部もございますので教育委員会だけじゃなくて、観光部ともうちょっと横の連携を取っていただいて、やっぱり文化と歴史の発信をするということで地域のためのものなんです、それがプラスアルファで観光と結びついたらなおもっと素晴らしいものに発展していくんじゃないかと、そんな思いでございます。

[参加者]

ちょっと関連するんですが、最近の観光客の動向を見ますと歴史と観光ということで、従来だとただ単に景色を見てやるということから、歴史に興味を持った形での交流をしているということがありますので、そういう意味でもこの博物館の意味というのは非常に大きいですね。

[参加者]

最後に3つだけ、知事さんをお願いいたしたいと。

是非中央に働き掛けていただきたいのは、国会の文教委員会の議員さんがおっしゃっていたんですが、国が所有している文化財はなるべく地方に返していただきたいという質問があったんですよ。

山梨ゆかりの文化財は山梨で預らせていただくとか、そういう働きかけを是非お願いしたいというのが一点目ですね。

それから、二点目は東京―甲府間の高速バスをここに立ち寄らせていただきたい。

5分と掛からないと思うんです。だから、東京からここで停まって降りていただいて、帰りもここに寄って拾って帰ってもらう。これをバス会社さんに是非お願いしていただきたい。

そして三つ目は、山梨県の政策で18歳以下の子供さん3人いるご家庭には子育て支援をなさっていますが、学生の土曜日の博物館入館はただですが、今言った子育て支援にかかるご家族に関しては、土曜日に限らず年間通してただもしくは割引で入館させてあげるような政策を取っていただきたい。

この3つをよろしくお願いしたいと思います。

〔司会〕

大分活発な意見が出て参りました。時間も経過しておりますので最後に知事からまとめも含めまして感想を申し上げて、終わりにしたいと思います。

〔知事〕

大変に貴重な、それぞれ皆さんこの博物館を愛されて、博物館のために日ごろご尽力をいただいている方々にふさわしい良いお話を聞かせていただいてありがとうございます。

来年の予算議論の中でも、大いにテーマにしなければならないお話も幾つもありまして大変に勉強になりました。

いろんなお話があったわけでありましてけれども、要はやはりこの山梨というのは、非常に大きな歴史的な遺産とか文化とかそういうものを持っていたわけですが、そういうものを県民が知って、それを知ることによって自分の県を誇りに思うようになるわけで、そういうものの拠点、言ってみれば山梨学のセンターになるべきものではないかというようなお話が多かったと思うんですが、なるほどおっしゃるようにその通りだなと思いました。

しかし、教育施設であるべきか観光施設であるべきか、両方であるのが一番いいわけで、いろんな貴重なご意見を是非我々も咀嚼をしながら、出来るだけ皆様方のこの博物館に懸けるご熱意にお応えできるように、一同がんばっていきたいと思っておりますので、これからも是非この博物館をしっかりと見守っていただき、またよりよいものにするためにご支援を賜りますようよろしくお願いをしたいと思います。

今日は皆さん本当にありがとうございました。

(拍手)

〔司会〕

皆さんどうもありがとうございました。